



宮古港海戦記念碑（浄土ヶ浜園地）

### 主な内容

## 特集：宮古港海戦

みんなの力で地域を創る

～平成29年度実施事業紹介～

平成30年度イベントカレンダー

ふるさと再発見

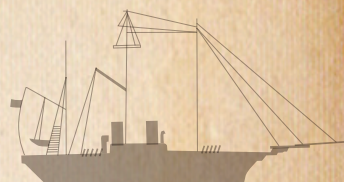
義経の足跡をたどる ～其の弐～



宮古港海戦解説碑（自木山）

# 宮古港海戦

1869年に勃発した宮古港海戦から、2019年で150年を迎えます。近代国家へ生まれ変わるうとしていた当時の日本を大きく揺るがした戊辰戦争。その最終段階である箱館戦争の結末に大きな影響を及ぼした「宮古港海戦」。今回は、そのわずか30分あまりの戦いについて紹介します。



## 戊辰戦争

1867年、江戸幕府第15代將軍徳川慶喜は、政権を返上し、幕府を廃止（大政奉還）。しかし実際は、慶喜の政権掌握が続いていました。そこで、明治天皇は、王政復古の号令を発し、強大な権力を保持していた旧幕府軍を、新政府軍が武力で倒すための争いを起こしました。この争いが、戊辰戦争です。

1868年鳥羽伏見の戦いを皮切りに、全国各地で旧幕府軍と新政府軍が衝突。1869年5月の箱館（現在の函館）五稜郭の落城により、旧幕府軍の敗北で幕を閉じますが、この「箱館戦争」の勝敗の鍵を握る戦いが、ここ宮古沖（現在の鍬ヶ崎沖）で繰り広げられたのです。

## 箱館戦争勃発

箱館戦争は、旧幕府の脱走軍が、榎本武揚をリーダーとして五稜郭に臨時政府を樹立し、新政府に對抗した戦いでした。1868年8月19日に8隻の船団で品川沖を出港した榎本艦隊には新選組の土方歳三も含まれており、総数は2,000名を超えていたといえます。途中中松島、宮古などに寄港し、艦

隊が蝦夷地（現在の北海道）に到着したのは10月20日のこと。土方らは隊を率いて箱館に進軍、25日には箱館の五稜郭を手中にしました。この後、榎本隊は松前、江差などを次々に占領。12月には蝦夷地全土（実際には全島の西南部）を手中におさめたとして、「蝦夷政権」を樹立しました。

一方、新政府軍には後の日露戦争で連合艦隊司令長官として活躍した若き日の東郷平八郎が参戦していました。

## 新政府軍が宮古へ入港。 旧幕府軍の狙いとは…

さて、年が明けて3月。新政府軍が、動き始めました。軍艦4隻、運送船4隻の船団は16日から22日にかけて宮古に入港します。一方の旧幕府軍榎本艦隊。これまで新政府軍に比べて海軍力では辛うじて優勢を保っていましたが、長い航海と蝦夷地占領作戦で戦力を大幅に減退させていました。このまま新政府軍の侵攻を待っていても勝敗は明らか。そこで彼らは一か八かの奇襲作戦を決意します。その名は、「アポルダージュ作戦」。当時の日本で国内最強といわれていた軍艦「甲鉄」に接舷攻撃を仕掛け、甲鉄



月山から宮古港を望む



宮古港海戦の様子（ホテル沢田屋蔵）

を奪うという作戦でした。新政府軍にイギリス軍が味方していたのに対して、旧幕府軍には、フランス軍が10名ほど参加していました。そのフランス軍人の指導を受けて、総司令官である荒井郁之助は、フランス語で「アボルダージュ（接舷攻撃）」という戦法を採用します。旧幕府軍は、このアボルダージュ作戦で、一気に形勢逆転を狙いました。

## アボルダージュ作戦決行

3月20日、旧幕府軍は、残っていた「回天」「蟠龍」「高尾」という3隻の艦を連ねて南下しました。しかし、強風や濃霧で3隻は離散。途中、山田港にて回天と高尾は合流しますが、新政府軍が宮古港に停泊中という情報を得て、山田港から宮古港へ北上中に高尾の機関が故障してしまい、またもや離散。夜明けが近づき、もはや高尾を待っている時間はなく、荒井は、回天1隻で作戦を決行するのです。

25日未明。回天は目的の軍艦「甲鉄」にそろそろと近づいていきます。最初の接舷は、船首を通り過ぎて失敗に終わりますが、二度目の接舷で船先を甲鉄の脇腹に乗り上げることに成功し、接舷命令。

「アボルダージュ！」

回天からは、海軍士官の大塚浪次郎や新選組隊士の野村理三郎に続いて、兵士が甲鉄の甲板に飛び降りて戦います。しかし、やがて甲鉄側も猛反撃を開始。1分間に180発連射の速射砲「ガトリング機関銃」が火を吹き、大塚や野村をはじめ、旧幕府軍の兵士は次々と倒れていきます。荒井は、作戦の続行が困難と判断し、旧幕府軍は、甲鉄の奪取を断念して退却することになりました。

## 箱館戦争終結。そして…

宮古湾を出ると、回天は、遅れていた蟠龍と高尾と合流し、箱館を目指して北上します。回天と蟠龍は、追って来た新政府軍の追撃を振り切り、無事箱館に帰還するも、機関が故障していた高尾は逃げ切ることができず投降することになってしまいました。

箱館上陸後、旧幕府軍と新政府軍の蝦夷地征討戦が始まりましたが、新政府軍が次々と攻略し、土方歳三は戦死。1869年5月18日、旧幕府軍は五稜郭を開城し、新政府軍に降伏。箱館戦争は幕を閉じ、1年5ヶ月にも及ぶ戊辰戦争は終結。こうして、日本全土が明治政府の統制下に入ったのです。

江戸を離れ、遠く蝦夷の地に独立国を建設しようとした旧幕臣たちの夢物語は、宮古の海に砕け散りました。その壮絶な戦いをしのんで、浄土ヶ浜のお台場展望台入口に「宮古港海戦記念碑」が、また湾内を一望できる白木山には「宮古港海戦解説碑」が建てられています。

皆さんも一度史跡を巡り、当時の情景や旧幕臣たちの心境を感じてみてはいかがでしょうか。

### 【参考文献】

・宮古市教育委員会編「宮古文化財辞典」（2010年）  
・宮古市教育委員会編「宮古市史 資料集 近世Ⅰ」（1984年）



宮古港戦績碑

## 宮古港海戦関連事業が行われます！

宮古港海戦の歴史を広めるため、これまでも様々な事業が行われてきました。

平成30年度は、地域創造基金を活用した「宮古港海戦を広く内外に広める事業」が行われます。

歴史的な出来事から150年を迎えるにあたり、宮古市の歴史について、もっと多くの人に知ってもらうことを目的に行われるこの事業。

イベントの日程や事業の詳細については、本誌6、7ページのイベントカレンダーのほか、今後の広報やホームページをチェック！

（これまでに行われた事業）

### ●全国新撰組サミット in 2015

「なりぎり土方アボルダージュコンテスト」

「朗読×演劇『宮古港海戦』」

「みやこ秋まつりでの宮古海戦組パレード」など

## 宮古港海戦史跡案内MAP



# みんなの力で地域を創る



地域創造基金は地域住民の連帯強化や地域振興のための事業に活用されています。今年度、8月中旬以降に実施された9事業についてご紹介します。



宮古

## 僕らの夏祭り

### 僕らの夏祭り実行委員会

8月11日に「僕らの夏祭り」を赤前地区にて開催しました。今回で7回目となる夏祭りは、関東の大学生を中心とした「僕らの夏休みProject」と協働で実施しています。当日は、ゲスト歌手による演奏やソーラン節といったステージイベント、ビンゴ大会や地元企業の出店など子供から大人まで幅広く楽しんでいただき、最後は参加者全員の赤前音頭で締めくくりました。

世代を超えた地域交流の場が地域コミュニティの構築に繋がり、暮らしやすい地域社会づくりの一助になるよう、これからも「僕夏」を続けていきます。



宮古

## ウェルカムフラワーが迎える街並み創出事業

### 昭和通りのおかみさんもなしたい

訪れた方々に癒しのひと時を感じてもらうため、4月から11月にかけて、宮古駅や商店街にハンギングバスケットやプランターを飾りました。

今回も、小学生やJ-R 宮古駅・三陸鉄道宮古駅の職員の皆様、宮古商業高校の生徒をはじめとしたボランティアの皆様、延べ132名の方々にご協力いただき、おもてなしの心を育む機会にすることができたと思います。小学校からは、毎年楽しみにしているというお言葉をいただきました。

花で彩られたまちをみて、震災や台風被害から立ち上がるまちの活気を感じていただけだと思います。



宮古

## ピョンカフェスティバル

### MIYAKO Revolution21

1月21日(日)、総合福祉センター健やかホールにて「第4回ピョンカフェスティバル」を開催しました。カフェコーナーでは、子どもから大人までが夢中になり、毎回大人気のダンボール工作と身近な素材(紙コップ・紙皿・ペットボトルのキャップ等)を使った手作りおもちゃコーナーでは、自由な発想で様々な作品が出来上がりました。

今回は、男性保育士連チーム・ファンタジスタをお迎えし、「親子のふれあい」をテーマとした遊びを行い、大変好評でした。中学生から大人までのボランティアに支えられ、子どもも大人も笑顔いっぱいイベントとなりました。



宮古

## 復興 冬のイルミネーション

### 宮古商工会議所青年部

震災以降継続している、宮古市役所前歩道橋の「復興・冬のイルミネーション」は、11月23日(木)から3月3日(土)にかけて点灯し、設置作業には合計59名もの方にご協力をいただきました。

流行語に選ばれた『インスタ映え』をテーマにフレームを作成し、宮古で一番インスタ映えするスポットを目指しました。今回もメッセージをステッカーとして貼る取り組みを行い、今年宮古市とのフェリー航路が開設する、室蘭市の青山市長からもメッセージをいただきました。

震災からの復興へ邁進する宮古市のシンボルの一つとなるよう、これからも市民の皆さんの心を明るく照らします。

田老  
田老地区復興まちづくり協議会  
宮古市田老地区復興まちづくり協議会



本協議会は、田老地区で居住・就労環境の充実による定住促進を図ること、復興への具体案を提案することを目的として田老地区の有志により活動している団体です。

田老地区の人口は、震災前の80%まで減少しています。今後、田老地区の活性化をどのように行っていくべきかを皆さんで考えるため、11月に元田老診療所医師の黒田仁先生を講師に迎え、「田老を生かそう」をテーマに、講演会を開催しました。当日は地区内外から多くの方々が参加し、活発な意見交換が行われました。

参加者からは、講演会の継続を希望する声が多く寄せられ、盛会の内に終わることができました。

田老



Light Up NIPPON (おらほの夏まつり2017)

WARADUKA

「おらほの夏まつり」は震災以降、LIGHT UP NIPPONや、賛同者の協力により「LIGHT UP NIPPON」おらほの復興花火大会として、毎年8月11日の震災月命日に開催しております。

7回目となる今回は、夜店のほか「松本哲哉」や「イマイ・ファミリー」のライブ、寄せられた復興への思いの読み上げ、花火の打ち上げを行いました。今では、約3千人の方が訪れる毎年恒例の催しとなり、参加者は、夜の海上に打ち上がる色鮮やかな花火に見入っていました。

新里



和井内ふるさと収穫祭

和井内区

11月5日、和井内ふるさと会館において、区民手づくりによる第16回和井内ふるさと収穫祭を開催しました。

当日は、肌寒い天候の中、新里小学校児童による「新里太鼓」の元気良いばちさばきで、会場を温めていただきました。各テナントに並んだ餅、果物類をはじめ地元産の野菜や米、果物などの山の幸や手作りの汁物は、瞬く間に完売しました。

ステージでは、歌謡ショーや踊り、お楽しみ抽選会、そして餅まきと多彩なイベントが行われ、それは打ち体験コーナーや婦人会による食堂も大好評で、大勢の来場者に楽しんでもいただきました。今後、地域の活性化のため、地域ぐるみで取り組んでいきたいと思います。

川井



2017 オースタムフェスタ in 区界高原

projectがま美行委員会

2017オースタムフェスタ区界高原が、9月24日に開催されました。当日は、高原野菜販売や元祖雲石トラ市が特別参加するなど、23の出店が並び、2年ぶりのフェスタは大いに盛り上がりました。

ステージでは宮古あばれ太鼓や地域有志舞踊が披露され、今月初の試みである区界高原ガイドウォーク、最後にはお楽しみ抽選会や餅まきと、大賑わいとなりました。区界地域の皆様の強力なバックアップのおかげで地域ならではのイベントとなり、市内外の人々の交流につながることができました。今後も息の長いイベントにしていければと思います。

川井



第45回川井郷土芸能祭

川井郷土芸能団体連絡協議会

第45回川井郷土芸能祭が、11月5日(日)に宮古市立川井小学校体育館で開催されました。

川井地域から10団体、宮古地域から「小沢獅子踊り」が出演し、その他川井中学校の生徒に、総合学習の取り組みとして、2演目披露していただきました。

各団体とも園児から高齢の方々まで幅広い年齢層が一緒になり、それぞれの地域の伝統ある郷土芸能を熱演しました。

各団体とも素晴らしい芸能で、お互い称賛し合いながら観賞していました。会場からは盛大な拍手や声援をいただき、今年も盛会のうちに終了することができました。

月	日 程	イベント名(事業名)	開催場所	内 容	主 催	地 域
11	17日(土) ～	復興 冬のイルミネーション	宮古市役所前歩道橋	イルミネーションの設置 ※平成31年2月24日(日)まで 実施予定	宮古商工会議所 青年部	宮古
11	18日(日)	江繫地区収穫感謝祭	旧江繫小学校	地域の郷土芸能発表、写真・絵画 コンクール開催	江繫地域づくり 委員会	川井
11	25日(日)	踊りの里OGUNI	小国地域振興 センター	郷土芸能等の発表、名産品・写真 コンクール	小国地区地域づくり 委員会	川井
11		津軽石郷土芸能 保存育成事業	津軽石地区	郷土の歴史を学ぶ講座の開催や 郷土芸能の伝承 ※～12月頃まで実施予定	津軽石郷土芸能団体 協議会	宮古
1	20日(日)	ピヨンカフェスティバル	宮古市総合福祉 センター健やか ホール	手作り工作や積み木など、親子が 遊べる場の提供	MIYAKO. Revolution21	宮古
	通年	宮古港海戦の歴史を広く 内外に広める事業	市内各所	宮古港海戦についてのイベントや 市民向け学習会を開催	宮古港海戦の会	宮古
	通年	新里地区 生涯スポーツ推進事業	新里トレーニング センター、新里生 涯学習センター など	各種スポーツ大会等を開催し、生涯スポーツを推進 ・グラウンド・ゴルフ大会 ・ソフトボールリーグ ・スポーツ・レクリエーション祭 ・ビーチボールバレー大会 ・各地区体育行事開催	新里地区生涯 スポーツ推進協議会	新里



僕らの夏祭り



田老地区体育大会



閑伊川川下り大会



川井地域大運動会

## ◆平成30年度宮古市地域創造基金事業について◆

宮古、田老、新里、川井地域自治区において、追加募集は行いません。

※各地域自治区概ね500万円の範囲内で事業を採択しています。



# 宮古市地域イベントカレンダー H30.4月以降の事業紹介



平成 30 度 4 月以降に予定されている地域創造基金事業を活用したイベントや行事などを紹介します。

※天候などの事情により、事業の中止や日程・場所などが変更になる場合があります。

月	日 程	イベント名(事業名)	開催場所	内 容	主 催	地 域
4		ウェルカムフラワーが迎える街並み創出事業	宮古駅、駅前商店街など	ウェルカムフラワーの飾りつけ ※～11月末まで実施予定	昭和通りのおかみさんもてなしたい	宮古
5	6日(水)	宮古港海戦供養祭	浄土ヶ浜	宮古港海戦に関わるステージ発表や遊覧船を利用した供養を実施	宮古港海戦の会	宮古
5	20日(日)	復興たろう大漁まつり	田老地区イベント広場	大漁祈願の神輿や曳き舟、出店・ステージイベントなど	田老大漁まつり実行委員会	田老
6	17日(日)	閉伊川釣り大会	閉伊川本・支流道の駅「やまびこ館」	3匹計量。河川の空き缶などごみ回収が必須。	川井大自然交流実行委員会	川井
7	15日(日)	第26回「海の日」宮古港カッターレース	宮古市魚市場前	9m艇を使った市民参加のカッターレースの開催	宮古港カッターレース実行委員会	宮古
8	4日(土)	サマーフェスタにいさと2018	新里トレーニングセンター特設会場	招待郷土芸能、交流カラオケ大会、歌謡コンサート、抽選会、出店など	サマーフェスタにいさと実行委員会	新里
8	5日(日)	第53回「音楽の夕べ」	宮古市民文化会館大ホール	市民参加の合奏団・合唱団とプロとの共演による音楽会の開催	宮古市で交響曲を演奏する会	宮古
8	11日(土)	僕らの夏祭り	赤前コミュニティー消防センター前	子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる夏祭りの開催	僕らの夏祭り実行委員会	宮古
8	11日(土)	おらほの夏まつり2018	田老地区イベント広場	花火大会や出店、ステージイベントなど	WARADUKA	田老
9	2日(日)	閉伊川川下り大会 2018	閉伊川特設コース(腹帯～湯ったり館)	ゴムボートによる川下り	閉伊川遊イング事業実行委員会	新里
9	23日(日)	2018 オータムフェスタ in 区界高原	道の駅区界高原	特産品等のPR、販売	project かどま実行委員会	川井
10	7日(日)	第72回田老地区体育大会	田老第一中学校校庭	田老地区住民の大運動会	田老地区体育大会実行委員会	田老
10	7日(日)	川井地域大運動会	川井小学校	川井地域住民総参加の大運動会	川井地域大運動会実行委員会	川井
10	28日(日)	早池峰マラソン	主会場 川井中学校	峠コース 30 km 里コース 5 km/10 km	特定非営利活動法人 かわい元気社	川井
10	28日(日)	川井郷土芸能祭	川井小学校	川井地域郷土芸能団体の活動成果発表	川井郷土芸能団体連絡協議会	川井
11	4日(日)	和井内ふるさと収穫祭	和井内ふるさと会館	地域農産物、餅・団子等の販売 十割そば食堂開設・そば打ち体験 ステージイベントなど	和井内区	新里

# 義経の足跡をたどる

其の貳

悲劇の名将、源義経は文治5年（1189）4月、兄の頼朝に追われ、平泉で自刃したとされています（吾妻鏡より）。この英雄に対する哀惜の念から、義経はひそかに平泉を脱出し、北へ逃げ延びたという「義経北行伝説」が東北各地に多く残されており、宮古市内にも義経北行伝説にかかわる史跡が点在しています。今回は新里地域の史跡を紹介しましたが、今回は田老地域に残る史跡を紹介します。

## 田老地域の史跡紹介

田老の新田地区には、義経の従者の一人、金売吉次の弟である吉内（まちない）が建てたとされる「吉内屋敷跡」があります。

吉内は、蝦夷地を目指して北上する義経一行と別れてこの地に永住したとされています。姓氏を「吉内」と改め、背後に山、前方には鉾方崎、黒崎まで一望に見渡すことができる高台に、広大な屋敷を構え、付近一帯の山林原野を所有し、当地の開拓にあたり、「砂金売り」を業としたと言われています。



### ○吉内屋敷跡

吉内屋敷には黄金造りの砂金すりや、義経着用のヨロイとカブトがあったと言われていますが、昭和36年の三陸フェーン大火により、屋敷も家宝も全て焼失し、今は屋敷跡の石垣だけが残っています。



その屋敷にしばらく留まった義経は里人の願いで、飛山の悪者を退治し、その道先案内をつとめた鶴の鳥が、敵の矢にあたって命を落としたことから「鶴の鳥神社」を祀ったとされています。

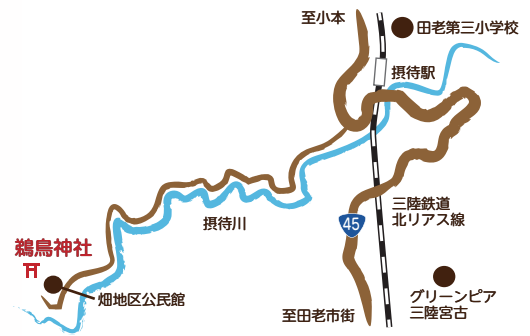
このほかに、和野地区には、「げんどう」という屋号を持つ家がありますが、これは「源氏の義経が通ったところ」という意味から「源道」という屋号が付いたといわれています。

田老観光協会発行「田澤直志編集『田老の民話』より



### ○畑地区「鶴鳥神社」

畑地区の山中にある神社で、言い伝えによると、鶴の鳥が撰待川に沿って義経を誘い、上流に向かうと、畑部落の人々が源氏の旗を振って歓迎したことから、この地に「鶴鳥神社」を祀ったといわれています。お社は三陸フェーン大火で焼失し、その後建替えられています。普代村にある「鶴鳥神社」と縁故関係があるといわれています。



### 【義経略歴】

平治元年（1159）  
父・源義朝、母・常盤御前の九男として生まれる。「平治の乱」で父義朝敗死。2歳の時に父を失うが、仏門に入ることを条件に助命。牛若丸（義経の幼名）7歳の時、京都鞍馬寺に入門。

承安4年（1174）  
京都鞍馬寺を脱出。三条吉次季春（金売吉次）に伴われて奥州藤原秀衡のもとに頼る。この時16歳前後。奥州下向の途中に元服して「源九郎義経」と名を改める。

治承元年（1180）  
兄頼朝、相模の国石橋山で拳兵。秀衡の制止を聞かずに佐藤信忠以下手兵二十余騎を率いて参陣。黄瀬川の陣所で対面する。

元暦元年（1184）  
宇治川の戦いで木曾義仲を破る。次いで一ノ谷で平家を破る。

文治元年（1185）  
屋島の戦い、次いで壇ノ浦の戦いと連勝してついに平家を滅亡させる。

兄頼朝と不和になり、九州へ落ち延びる途中に難破して、吉野など各地に潜む。

文治3年（1187）  
奥州に下り再び藤原秀衡を頼る。

文治5年（1189）  
4月29日兄頼朝の圧力を受けた藤原泰衡に攻められ自刃。  
その後、泰衡も頼朝に攻められ、藤原氏滅亡。

文治4年（1188）  
実は、これより前に全てを予見していた藤原秀衡の遺言により、平泉高館をひそかに脱出して北上を続け、ついに蝦夷に渡って行ったという。

（参考資料）  
義経北行伝説 生きていた源九郎判官義経  
伝説義経北行コース：若手県観光連盟